

【研修会概要】

ガバナンスの強化に向けて

(オアーズパーソンシップの確立とハラスメントの撲滅)

1 現状の問題点等 — 各種競技団体におけるハラスメント事例の頻発

(1) 問題の背景にあるもの

- ① 勝利至上主義等
- ② 「支配」と「受容」の関係 ⇒ 褒美としての見返り (選考・就職・進学等)
- ③ Coaching に対する理解・指導力の不十分性等

(2) ハラスメント (嫌がらせ) 等の表れ方

- ① パワー・ハラスメント
- ② セクシュアル・ハラスメント
- ③ 過剰、競技力向上と無関係な不合理な指導等
- ④ いじめ、暴行、暴言その他「犯罪レベル」の違法行為

↓

暴行・傷害、名誉毀損、強制わいせつ等

2 ハラスメントの中核的要素 —

「被害者」の不快感

競技活動の環境悪化

↑

直接の被害者が容認していても不可



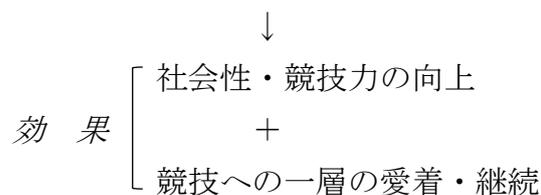
権力関係 (地位・人間関係等の組織内の「優位性」) に基づく権力的・性的言動

3 各種ハラスメント等の具体例

- (1) パワー・ハラスメント
- (2) セクシュアル・ハラスメント
- (3) 過剰、競技力向上と無関係な不合理な指導等
- (4) いじめ、暴行、暴言等
- (5) モラル・ハラスメント — 無視、見下す、脅す、練習参加の拒絶等
- (6) 妨害・陥れ（薬物混入等）等

4 ハラスメント等の撲滅に向けた対応等

- (1) 目標とする「選手像」の転換 — 『従順』から『自立(律)』へ



- (2) Coaching の技能の向上等
- (3) ハラスメントを許さないという意識の浸透と是正のための受け皿（日本ボート協会ホットライン等）の機能発揮等

5 オアーズパーソンシップの確立 ⇔ ハラスメントの許容

↓

『ボート競技に携わる者の人格・人権を相互に尊重し、敬意をもって接するとともに、競技・社会のルールを守ってフェアに行動する』ことの重要性の自覚とその実践に向けた努力の継続

- 6 その他（他競技団体の事例や判例・仲裁事例への言及等） 以 上